

英知を結集した原子力科学技術・人材育成推進事業
戦略的原子力共同研究プログラム
事後評価総合所見

<p>研究課題名：原子力発電所等における停止時未臨界監視手法の開発 代表研究者（研究機関名）：田代 祥一 （株式会社グローバル・ニュークリア・フュエル・ジャパン） 再委託先研究責任者（研究機関名）：島津 洋一郎（福井大学） 研究期間及び研究費：平成27年度～平成29年度（3年計画） 44百万円</p>					
項目	要 約				
1. 研究の概要	<p>現在の商用原子炉には、未臨界度を直接監視できる手段はないため、商用原子炉における未臨界度のオンライン監視を実現化することを目的とし、炉心シミュレータのマイクロ燃焼モデルによる中性子源強度評価技術と、最新の簡易フィードバック理論に基づくノイズフィルタを備えた反応度評価手法とを融合させ、停止中の沸騰水型原子炉の未臨界状態を監視する装置を開発し、適用性について検証を行うことを目的とし、以下の研究開発を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 反応度評価手法の開発 2) 核計装信号処理手法の検討 3) 未臨界監視装置の試作 4) 核計装データ採取 5) 未臨界監視装置の検証 				
2. 総合評価	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center; width: 10%;">A</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・停止時の沸騰水型原子炉の未臨界状態の監視法及び未臨界計測検出装置が開発されるなど実用的な成果が得られている。 ・今後は、得られた成果を活用し、実用開発につなげて欲しい。 </td> </tr> <tr> <td></td> <td> <ul style="list-style-type: none"> S) 極めて優れた成果があげられている A) 優れた成果があげられている B) 一部を除き、相応の成果があげられている C) 部分的な成果に留まっている D) 成果がほとんどあげられていない </td> </tr> </table>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・停止時の沸騰水型原子炉の未臨界状態の監視法及び未臨界計測検出装置が開発されるなど実用的な成果が得られている。 ・今後は、得られた成果を活用し、実用開発につなげて欲しい。 		<ul style="list-style-type: none"> S) 極めて優れた成果があげられている A) 優れた成果があげられている B) 一部を除き、相応の成果があげられている C) 部分的な成果に留まっている D) 成果がほとんどあげられていない
A	<ul style="list-style-type: none"> ・停止時の沸騰水型原子炉の未臨界状態の監視法及び未臨界計測検出装置が開発されるなど実用的な成果が得られている。 ・今後は、得られた成果を活用し、実用開発につなげて欲しい。 				
	<ul style="list-style-type: none"> S) 極めて優れた成果があげられている A) 優れた成果があげられている B) 一部を除き、相応の成果があげられている C) 部分的な成果に留まっている D) 成果がほとんどあげられていない 				